

1990年 2月10日

<毎月10日発行>

第127号 4 頁 200円

定期購読料（送料込み）
半年 1500円、1年 3000円

赤旗

共産主義者同盟中央機関紙

(1980年2月28日第3種郵便物認可)

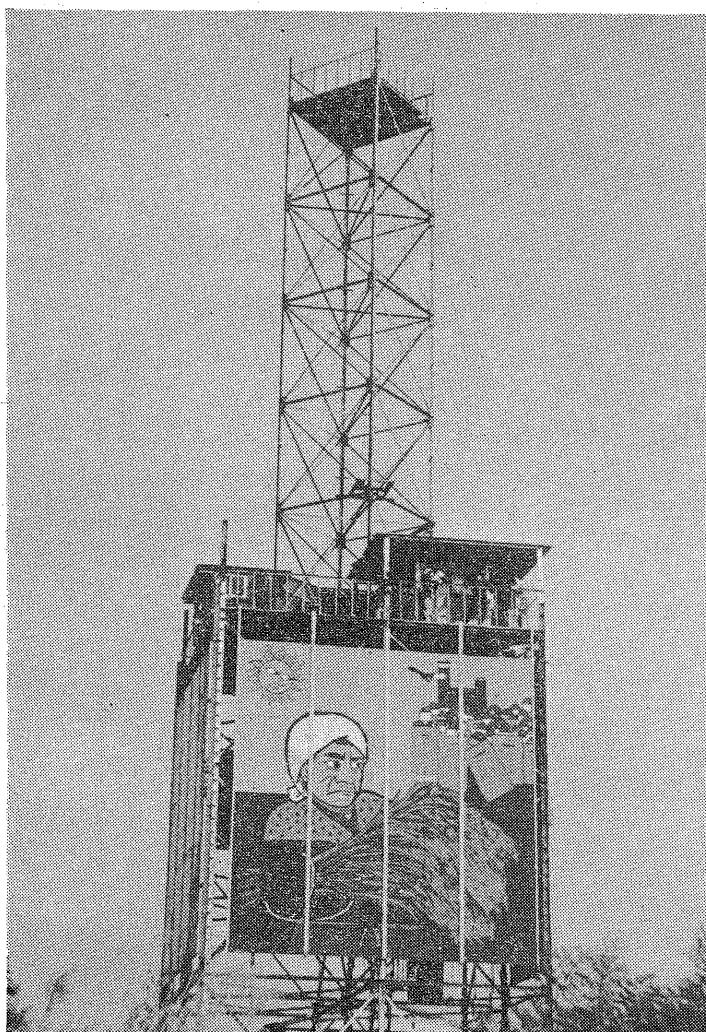
二面……本島市長への右翼テロ弾劾

三面……ペレストロイカ批判

四面……核・原子力問題

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号
郵便振替 東京 9-352128発行
赤路社

横堀団結小屋を実力で防衛せよ



二里塚闘争の解体策す

治安法(封鎖)攻撃を許すな

すべての同志・友人のみなさん、政府・運輸省は、一月十日、B滑走路予定地の北原派天神峯團本部を封鎖し、年度内に「滑走路予定地に立つ音踏ハウスと横堀団結小屋を封鎖・除去して「治安法による用地内抵抗拠点破壊」を完了させると宣言した。敵は、収用委員会審議を待たず、治安法を押し立てる決戦に踏み込んだ。三重塚、崩壊抗争の爆発を決する決戦の時がやってきたのだ。すべての同志・友人は、自ら現地実力決起の身仕度を整え、全ての三重塚勢力と共に、一期阻止空港廃港をめざして闘い抜いていく反対同盟と聞く団結して、横堀団結小屋実力防衛の大衆的抵抗闘争に立ち上り、九十

度概成プランを終破産に追いこもう。

敵の狙いはなにか

「国際國家」日本の威信をかけた国策事業の完成をかけて、用地内農民を中心とする空港反対・農地死守／一期阻止・空港廃港の闘いによって大破壊を強いる現状に業を煮やした

政府・空港公团は、昨年九月、「新東京国際空港等の完全確保に関する緊急措置法(成田治安法)」をその立法趣旨からも逸脱して適用。空港反対闘争を治安問題として、いらでいる現状に業を煮やした

りかえ、現地支援勢力の一掃と用

争そのものの鎮圧、即ち用地内農民を丸裸かにして、用地買取強要であり土地取扱法やそれに準ずる臨時措置法に基づく強制代執行であれ「未賣取地の取得」をし、これをその立法趣旨からも逸脱して適用。空港反対闘争を治安問題として、いらでいる現状に業を煮やした

りかえ、現地支援勢力の一掃と用

争そのものの鎮圧、即ち用地内農民を丸裸かにして、用地買取強要であり土地取扱法やそれに準

ずる臨時措置法に基づく強制代執行であれ「未賣取地の取得」をし、これをその立法趣旨からも逸脱して適用。空港反対闘争を治安問題として、いらでいる現状に業を煮やした

りかえ、現地支援勢力の一掃と用

争そのものの鎮圧、即ち用地内農民

ソ連社会帝国主義のペレストロイカ

△はじめに△

戦後の帝国主義と社会帝国主義の世界は、単純にアルジニア階級支配の危機として展開していない。崩壊が西側帝国主義からではなく、ソ連・現代修正主義からではなく、ソ連・社会主義が広がつてきているのである。

二十年代の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曽有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

国际共産主義運動は、十九世紀ごろ

からその本質を失いつつある。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

させ、人民の闘争におけるプロレタリア

一派の指導性を解体させている。

今や、スターリン主義に反対する大合

唱の渦の中から、古手の修正主義たる社

会主義が台頭し、いやそれ以上に、

あらざまな資本主義者が広がつてしま

っているのである。

ソ連社会帝国主義は、ソ連が現行修

正主義に転落したときに、世界革命・暴

動のさなかに誕生した第一次大戦は、

西側諸国から始まり、それが一般に社会主

義・共産主義の破壊として語られ、實際

二十世紀の発展の変質・終焉の極まりだ

という事実は、マルクス・レーニン主義

の思想・政治運動を未曇有の困難に直面

核・原子力と現代帝国主義

11

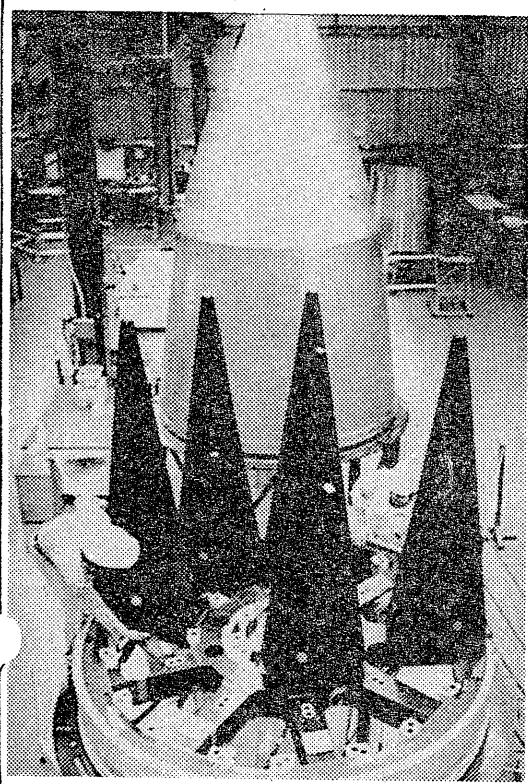
占領本の工場の陣地であり、それを保護する。先端技術の開発、その生産過程への応用は一部資本の利益のみならず、一國家の浮沈をも左右しかねない。米ソのみならず英仏西独、日露帝国主義諸国は自國の特權的地位を強化すべく、ナポリの一大事故後も、原発の推進に全力をあげている。

荒木周造

核子力問題と 現代マルクス主義

三九

- | | | |
|------------|------------------|--------------|
| 一、現状のデッサン | 二、歴史的点描 | 三、技術革新の第三の波 |
| 四、核と安保体制 | 五、自然、技術および生産と原子力 | 六、人道主義と日和見主義 |
| 第78号 | 第79号 | 第75号 |
| (1) | (2) | (1) |
| (2) | (3) | (2) |
| (3) | (4) | (3) |
| (4) | | (4) |
| 核廃絶問題 | 文の限界 | 「技術」批判の批判 |
| ノン連・東欧の改革と | 「反省」—佐野・山村論 | 人道主義と日和見主義 |
| 第26号 | 第123号 | 第115号 |
| 第125号 | 第116号 | 第114号 |



多弾頭のMXミサイル
正式名LGM118Aピースキーパー、大量殺戮兵器にかかるわらず平和の守り手などといふふざけた名称がついている。

占領本の工場の産物でありそれを保護する。先端技術の開発、その生産過程への応用は一部資本の利益のみならず一国家の浮沈をも左右しかねない。米ソのみならず英、仏、西独、日等帝国主義諸国は自ら特権的地位を強化すべくチュエルノブリの大事故後も、原発の推進に全力をあげている。

以て簡単に要約したまゝに、核・原発は米帝を頂点とした国際反革命体制につく連社会帝国主義との世界支配をめぐる争闘が展開されている現代という時代の歴史一世界一社会関係の産物に外ならぬ。したがつてこの基本的な組合が打ち破られるならばすなわち帝国主義打倒・社会帝王主義打倒の世界革命が闘ふとされるならば現代の歴史一世界一社会関係の必然の產物たる核兵器体系と原子弹力発電とは不可避に解体へ向かわざるをえないものである。今日、米ソ両超大国の力が相対的に低下し、とりわけ東欧

クス主義と力問題と

においてソ連の從属下からの自立がダイナミックに追求されている。核兵器と原発に対する闘いは全世界で粘り強く闘かれており、それがいかにも強大な帝国主義・社会帝王主義超大国であれ必ず瓦解し打ち倒されなければならぬのである。

第二次大戦後の現代生活を代表するもの一つである核兵器および原子力発電に対する「マルクス主義」の対応は複雑なものであった。ソ連をはじめとする公認共産党は中国共産党をも含めてこれを推進する立場を取っている。もちろんこれら諸党もアメリカを主張する核武装に対しては断固批判を加えてきた。しかしソ連、中国共に自らの核武装はこれとの対抗・「防衛」の故をもって正当化したのだった。この主張と行動はどりわけソ連において容認できぬことと言ふ返るものだ。ソ連の核武装はたんに中国を攻撃するなどない。

核兵器および原子力発電に対しては他に広範な批判派が存在する。民主主義者人道主義者市民・住民運動がその主だつたものである。その主張は主に反戦思想、ヒューマニズム、エコロジー等である。これら主張が反核・反原発闘争でそれをより有効な働きをしていることは言う迄もない。

金帝主義に対する根柢からの批判者は、核兵器および原子力発電に対してもは他のマルクス主義者と同様に反対する。民主主義者として絶縁されたことはじめられたのである。

しかししながら、われわれが対応する新しい問題への創造的とりくみをはじめとしたアプローチは、これまでの時代の歴史を眺め返す時、われわれは今日のマルクス主義の低迷、問題領域における新しい問題への創造的とりくみを頂点としたロシシア・マルクス主義の本主義の帝王主義への移行、帝王主義の大戦に真に革命的に対処しロシアの命を切りひらいた。それはこの時代に見てきたように核兵器および原発の対応を勝ちとった。したがつて、二度大戦から始まつた技術革新の波の産物だった。こじでは航空機、レーダー、自動制御装置、コンピューター、ミサイル、合成繊維、合成プラスチックの開発がなされた。この期の技術革新はオートメーション藝術であり、また第二次世界大戦後の新しい状況から再検討する時、今日のマルクス主義の限界も自ずと露になってくる。

しかしながら、われわれが対応する新しい問題への創造的とりくみをはじめとしたアプローチは、これまでの時代の歴史を眺め返す時、われわれは今日のマルクス主義の低迷、問題領域における新しい問題への創造的とりくみを頂点としたロシシア・マルクス主義の本主義の帝王主義への移行、帝王主義の大戦に真に革命的に対処しロシアの命を切りひらいた。それはこの時代に見てきたように核兵器および原発の対応を勝ちとった。したがつて、二度大戦から始まつた技術革新の波の産物だった。こじでは航空機、レーダー、自動制御装置、コンピューター、ミサイル、合成繊維、合成プラスチックの開発がなされた。この期の技術革新はオートメーション藝術であり、また第二次世界大戦後の新しい状況から再検討する時、今日のマルクス主義の限界も自ずと露になってくる。

しかしながら、われわれが対応する新しい問題への創造的とりくみをはじめとしたアプローチは、これまでの時代の歴史を眺め返す時、われわれは今日のマルクス主義の低迷、問題領域における新しい問題への創造的とりくみを頂点としたロシシア・マルクス主義の本主義の帝王主義への移行、帝王主義の大戦に真に革命的に対処しロシアの命を切りひらいた。それはこの時代に見てきたように核兵器および原発の対応を勝ちとった。したがつて、二度大戦から始まつた技術革新の波の産物だった。こじでは航空機、レーダー、自動制御装置、コンピューター、ミサイル、合成繊維、合成プラスチックの開発がなされた。この期の技術革新はオートメーション藝術であり、また第二次世界大戦後の新しい状況から再検討する時、今日のマルクス主義の限界も自ずと露になってくる。

このも大きく変わってきたのである。のみならず今日における生産力の飛躍的な発展は、土地からの掠奪、自然条件の擾乱によってもたらされたものである。これが止らす人類の自然的な生存諸条件全体の破壊に向かっていることをもううきりときた。
マルクスおよびエンゲルスはその活動の当初から資本主義的な生産過程、とりわけ産業革命を媒介として成立した機械制大工業が、社会、労働、自然、歴史に与える諸影響を注意深く觀察し、分析してきた。それは「資本論」として集大成された。どうわけその技術過程は第一巻第十三章「機械装置と大工業」に典型的に展開されている。ここでマルクスは「技術は、自然にたゞする人間の能動的な態度を、彼の生活の直接的生産過程をして、それとともに、また彼の社会的生活諸関係においておけるプロレタリアートの直接的生産過程を明らかにする」仕方で産業革命を基礎とした機械制大工業の実体を余すところなく暴露した。